



学力向上セミナーIIIレポート



←当日資料はコチラ

2026.3. 2

【授業観察について】

「どのような教師の働きかけ」により、
「どのような子供の姿」が生まれたのかを見取り、
その子供の姿について「本時の目標との関係」を分析する。



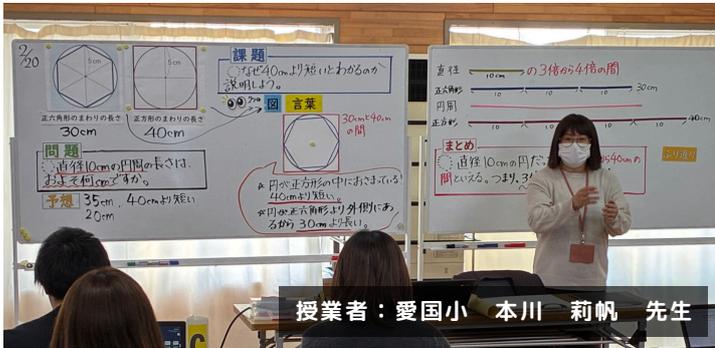
<https://forms.gle/ejBAtkck4izz2qKa6>

授業参観後、こちらのフォームへの打ち込み
をお願いいたします。

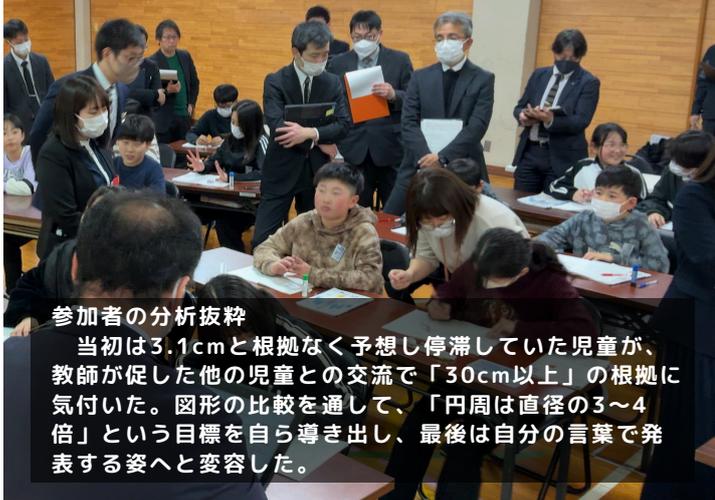


https://docs.google.com/spreadsheets/d/1QA4-q-gnysL0LNxjiz_UBoqyMx8Y8_HrG60bUhWGE8k/edit?usp=drivesdk

参観者の回答はこちらのスプレッドシート
で共有いたします。



授業者：愛国小 本川 莉帆 先生



参加者の分析抜粋

当初は3.1cmと根拠なく予想し停滞していた児童が、
教師が促した他の児童との交流で「30cm以上」の根拠に
気付いた。図形の比較を通して、「円周は直径の3~4
倍」という目標を自ら導き出し、最後は自分の言葉で発
表する姿へと変容した。



本セミナーでは、特定の子供1人に焦点を当てて授業
を見取る事後検討会を体験しました。参加者アンケート
の結果からも「教師の手立てが有効だったか深く見取れ
る」「共有により多様な視点から全体の学びを把握でき
る」「前向きな授業改善の協議ができる」など、多くの先
生方から好評を得ました。授業者・参観者・子供の全員
に大きなメリットがあるこの手法が、各学校の校内研修
等でも広く実践され、日々の学習指導の工夫や改善へと
つながっていくことを願っています。

本セミナーでの愛国小と北中の実践発表には、参加者
アンケートの結果からも「自校で共有・実践したい」と
熱意ある声が多数寄せられました。愛国小が示す「客観
的データを全員で分析し、授業改善へつなぐ組織的な
PDCAサイクル」や、北中が示す「テスト対策をその場
しのぎにせず、類題を日常の授業へ計画的に組み込む工
夫」は、子供の確かな学力の定着に直結するすばらしい
事例です。こうした前向きな学力向上の取組が、各校の
実態に合わせて工夫され、市内に広く波及していくこと
を強く期待しています。



事例発表者：愛国小 竹内 徹 先生
北中 中村 繁人 先生